

TESTA KITCHEN
PRESENTS
FANBOOK For ADULT
KAMIAI Collection

R-18

成人向け

H
響

B

輝

K





ケッコン
カッコカリ指輪

高い練度と
提督との
深い信頼を
持った
艦娘だけが
装着できる品

装着した艦娘は
提督の魂と
連携することにより
超常の加護を
得ることができるのだが…

この指輪には
一つの難点があった

装着していた艦娘が
提督に対して
「上官と部下」以上の
特別な好意を
持っていた場合…

※他鎮守府の
事例です

その感情が
指輪の力で
増幅されて
提督との間に
性的な関係を
結びたくて
たまらなくなつて
しまう…
「発情」して
しまうのだ

※他鎮守府の
事例です

それはまだ恋愛の意味すら
わからないような
幼い駆逐艦娘ですら例外ではなく…

ただですら
愛らしい容姿を持つ
駆逐艦娘が
自分への好意を
全開にして
抱いて欲しいと
迫ってくるのだ

こんな誘惑に誰が
耐えられるだろうか…
誰だって耐えられない
俺だって耐えられない

司令官？

そろそろ司令官の
気持ちに私に
示してほしいな

ケッコン指輪を
司令官から受け取った
その日から

こんなことを
ずっと夢見て
いたんだよ？

ましてや
鎮守府設立初期の頃から
苦業を共にしてきた響が…
…となると…

つまり…
これは
そう言うことなのです







俺はさ
響

響ともっと
近づきたいんだ

司令官…

響も
同じだよな？
なら…

俺が響を
知りたいように
響に俺を
知ってほしい

そうだね



響の全部
俺に見せて？



だからさ
恥ずかしがらずに

あ…♡

響の「っ」...

あっ...♡

思った通り
かわいいなあ

「っ」の色白で
透き通ってるね

...さっき下着を
脱がせた時から

...もう
濡れてたけど...

...雷に
いろいろ
聞いてきた...

それで
これかひのりとか
考えてたの

からだか
熱くなって
こんなじう...

うっ！

そっか



ちゅん...

知ってたりするんだ？

じゃあ...
ここから先は
何をするか

（ここまでは
大きくなるとは
知らなかったけど...）



いくよ...



私は...
司令官ともしっかり
強い絆を
結びたいな

だから
わたしと...

わかった



響のなかに

入るよ



はっっっ!

動くよ!



い...たっ...!



い...た...!



入る...入ったよっ!

わ...うっっ...!

ほら
響とつながったよ

つきは...



司令官を
わたしの
身体の
中に...

響...の...

(うわ...響...
かわいい...!)



響の中
暖かい！

はっはっ...

わたしも
おなかの中が

司令官で
暖かいの♡

うわっ...



響！
かわいい！
かわいいよっ！

ひゃ...♡

そんなこと
されたら
もっと響を
奥まで

あっっっっ♡

感じたく
なるっ！



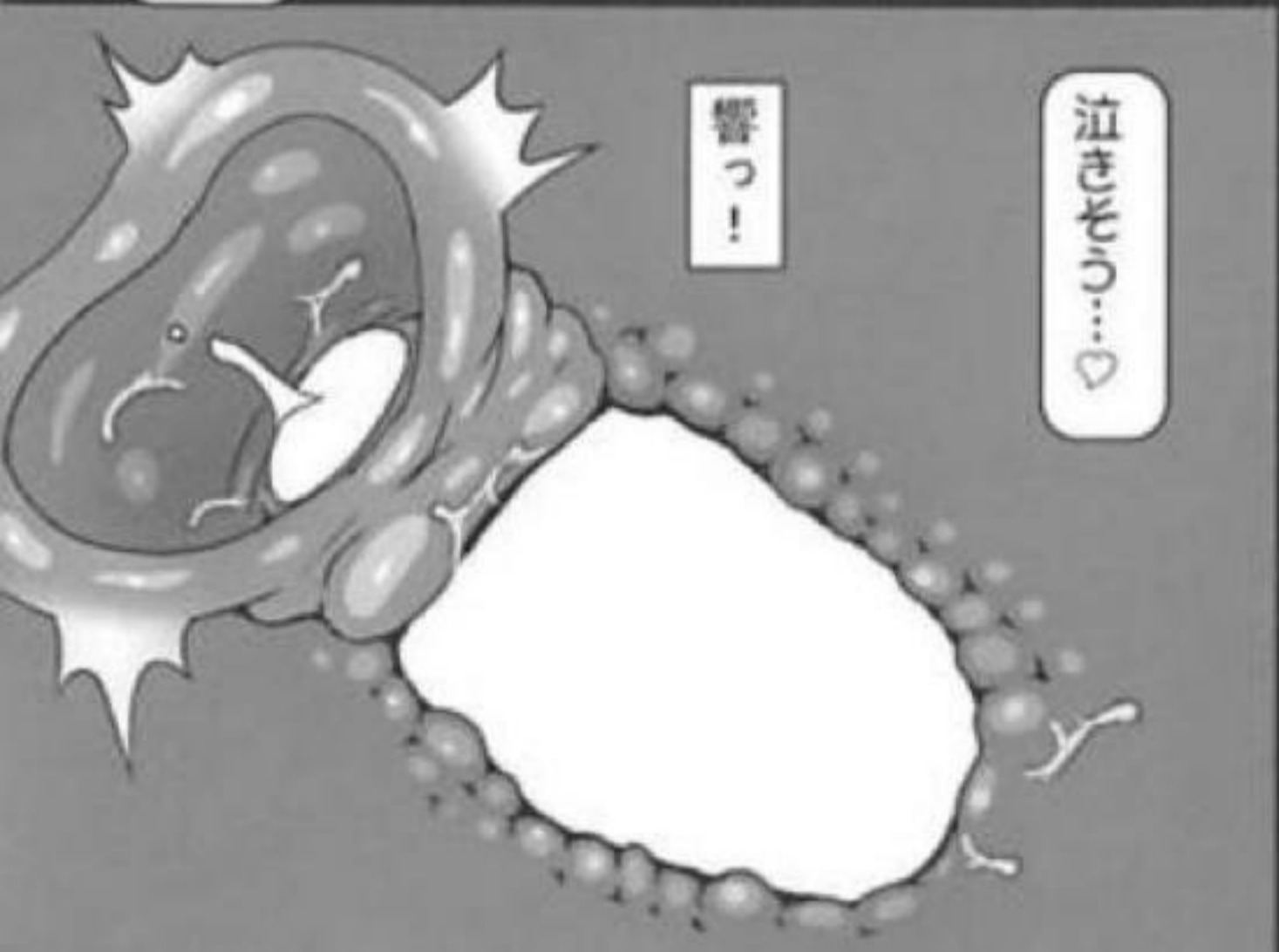
そんなこと言われたら
響の全部と

うん…♡

つながりたく
なるっ！

わたしも…♡

痛みじゃない
感情で



泣きぎょ…♡

響っ！



わ…
わたし…

わたし…も…



司令官に
おなかのおく
こられるたびに…

暖かい気持ち
あふれだすんだ

響！



響っ!!

あ...あああっ♡♡

もう 止まらないっ!!

あっ...♡♡ あああんっ♡♡

響に 俺を...



俺の 全部

はっ!!

ハンマー

受け止めてっ!!



射精るっ!

ん...ひゃああ!



しれいかんっ♡

んんん♡

あったかいのが
いッ...ちや...ひゃああ♡

はあひっ♡



キス♡

キス♡



しれいかんの
こと...

しれいかん...♡

はあ...♡

すろ...♡



わかりあえた
気がする...

これが
ケッコ
なんだね

...せつとあなた
だいすきになった...♡

というように

めでたく響と
ケツコンカッコシヨヤ
したわけだけど

いっ♡

はっ♡
はっ♡
はっ♡

(響が秘書艦の日は
その晩は必ず響に
求められます…)

(それから半年
経った今は)

司令官?



今夜もこんなに
大きくさせて

(響が大きく
したんだよなあ)

たまって
いるのかな?



こんな
小さな
身体相手に

こんなに
欲情して…

ひどい
ひどだね

う…





(その妖艶さに俺は...)

...は...

いいんだよ
司令官?



(響の白桃のようなおしりは)



(妖しく濡れそぼって)



い...
いいのか
響?

うん...♡

私も「うん」でせ

司令官を
感じて
みたいんだ♡



あ……うひ……あ

は……い……った……あ……!!



響に……
いれちゃうぞ……!!

あ……♡

あ……!!



わたしの
おしじじ……!!

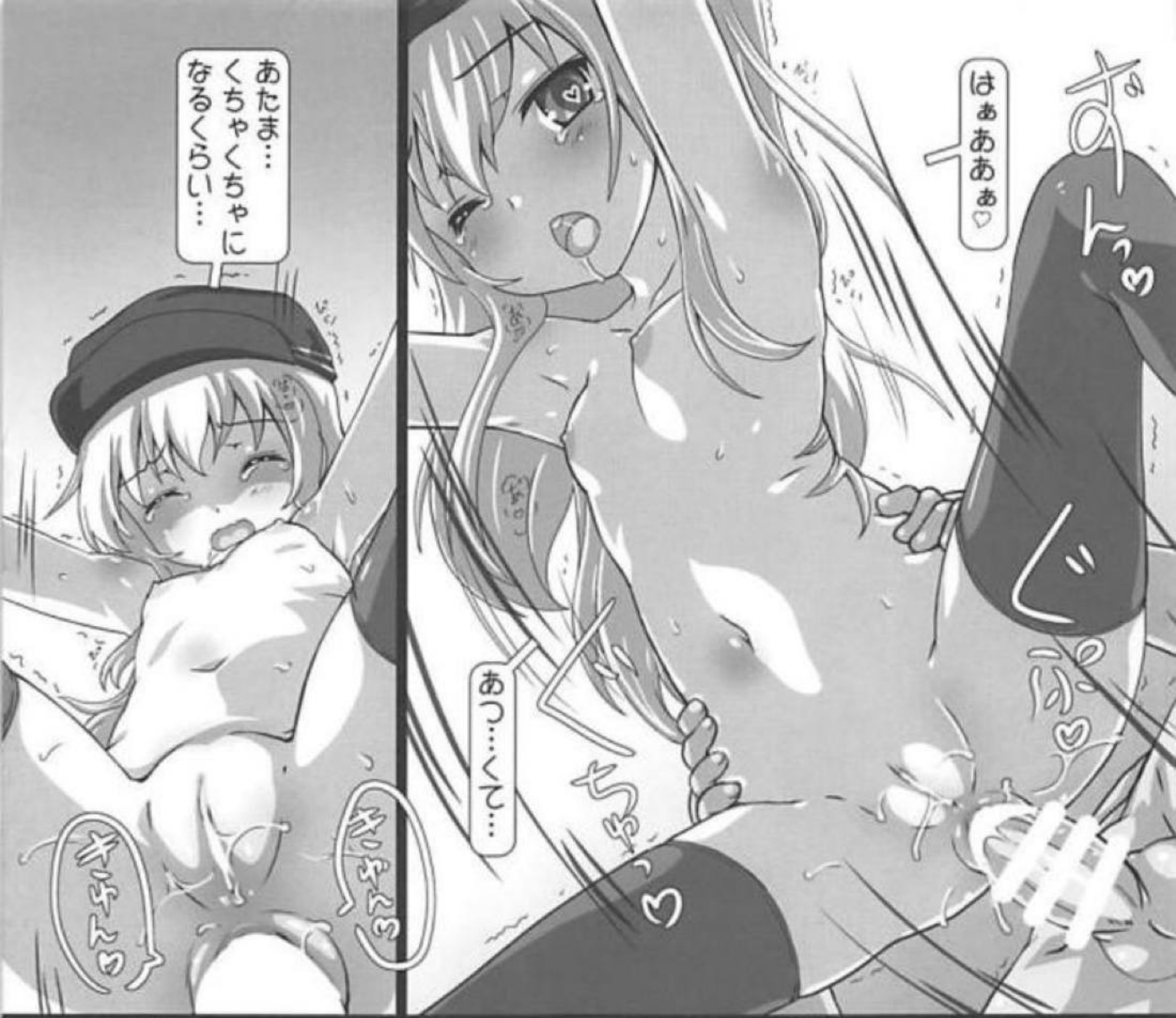
あ……ら……ぶ……♡
し……れ……い……か……ん……が……



あ……ら……ぶ……♡

あ……ら……ぶ……♡

うわ……
熱い……!!



あたま...
くちやくちやに
なるくらい...

はああああ♡

...んんん...

キキキ

キキキ



司令官の♡
きせきい♡

膝の♡
ごごご...

きせき...♡
ごごご...

きせき...♡
きせき...♡
きせき...♡

俺さ
きせき...♡
きせき...♡



(おどろき
たのしみ)

(おどろき...)



(腰が
甘い...)

(...おどろき...)



おどろき...
おどろき...おどろき...

おどろき...
おどろき...
おどろき...
おどろき...
おどろき...

おどろき...
おどろき...
おどろき...

おどろき...
おどろき...

そんなわけで
この新刊が無事発行できれば
俺的野望であったところの
第六駆逐隊の薄い本
めでたくコンプリート！な本だったのでした

※なお自分の制作体制の不手際により
4ページが目を覆いたくなるようなこと
になったことを
この場でお詫びいたします

最後までお読みいただいた
読者の皆様、および
ウルトラうんこ
遅刻入稿にも
かかわらず
寛大にも入稿を
受け付けてくださった
印刷所様
ありがとう
ございました！
心より御礼を申し上げます

ラストのカットが
本文趣旨と全く関係ない
夕雲姐さんで恐縮です…



